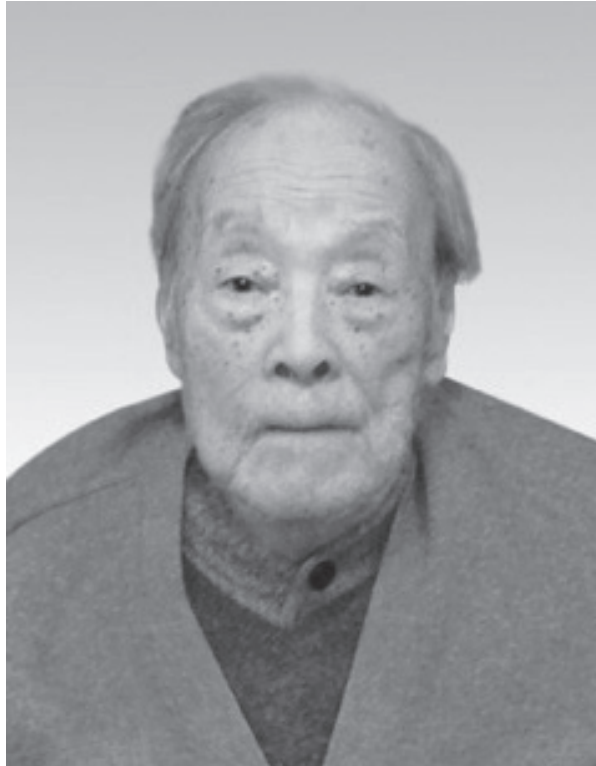


《追悼 福永安祥先生》



晩年の福永安祥先生

明星とともに30余年… ——福永安祥先生を偲んで——

高 島 秀 樹

明星大学人文学部社会学科教授・学科主任、いわき明星大学人文学部社会学科教授・学科主任・学部長を歴任された福永安祥名誉教授は、2014（平成26）年9月28日にご逝去されました。享年92歳、体調を崩されてからご入院1週間、ご長寿を全うされての穏やかなご最期であったとご子息からお聞きます。

福永安祥先生は、1992（大正11）年2月2日に岡山県倉敷市曾原にある真言宗御室派の名刹

である「一等寺」の次男として「梶川安祥」としてお生まれになりました。2歳で住職である実父様と死別し異母兄様とも別れて暮すこととなりました。そして、京都出身であられる実母様の旧姓「福永」姓となりました。実母様の再婚を機会に上京され、東京都杉並区にて異父妹弟様とともに暮らされました。そして芝中学校（旧制）、第一早稲田高等学院（旧制）、早稲田大学政治経済学部経済学科（旧制）に学ばれたものの、戦争状況の深化にともない繰り上げ卒

業の対象となり、1944（昭和19）年12月に海軍に応召、軍令部大本営海軍通信部・支那方面艦隊司令部に海軍少尉（後、海軍中尉）として配属されました。この部署には高学歴の者や外国語に堪能な者が配属され、通信傍受や暗号解読に携わっていたとのことですが、そこで東京外国語学校（当時：現・東京外国語大学）を卒業された鈴木幸壽先生と出会い、その交流は第二次世界大戦後も長く続き、後に東京外国語大学学長を退任された鈴木幸壽先生を明星大学人文学部社会学科教授にお招きすることで実を結ぶことになりました。

戦後復員された福永安祥先生は関東総合高等学校に教諭として勤務されたものの、向学の念に燃え1946（昭和21）年10月に在職のまま早稲田大学大学院（旧制）に入学され、社会学の研究に従事されました。1951（昭和26）年3月に大学院を修了され、東京写真短期大学（当時：現・東京工芸大学）講師（1952（昭和27）年4月～1957（昭和32）年3月）、東京電機大学専任講師（1957（昭和32）年4月～1966（昭和41）年3月）を経て、1966（昭和41）年4月に明星大学人文学部社会学科に助教授として就任されました。その後、1969（昭和44）年4月には教授に昇任、1981（昭和56）年10月には学科主任に就任されました。この間、早稲田大学、創価大学、東海大学、共立女子大学など多くの大学で社会学・教育社会学・アジア研究などの領域に関して講師として教鞭をとられました。

明星大学教授に昇任後、福永安祥先生ははじめてご実家である岡山県の一等寺を訪ねられ、既に住職を務められていた異母兄様と再会されました。2歳で別れて以来の兄弟の再会については、「ようやく自分も大学教授となり、あの寺の門をくぐることができるようになったから」とご家族に述べられていたとのこと。その後はご自分の故郷としての一等寺、その皆

さんをととても大切にされていたとのこと。

1987（昭和62）年4月に明星大学を設置運営する学校法人明星学苑は福島県いわき市にいわき明星大学を開設しましたが、福永安祥先生は当時の学校法人明星学苑理事長・明星大学学長児玉三夫先生の要請を受けて開設計画の作成・開設準備の業務を担当され、開学と同時にいわき明星大学学長に就任した児玉三夫先生の下、人文学部社会学科教授・学科主任・人文学部長に就任され、新設大学における教育・研究・運営を軌道に乗せるという困難な仕事に立ち向かわれて成果をあげられ、さらに大学院人文学研究科社会学専攻の開設もなしとげられました。1997（平成9）年3月にいわき明星大学をご退職になると同時に、多年にわたる明星大学・いわき明星大学に対するご貢献を讃えて、明星大学名誉教授の称号が贈られました。福永安祥先生は明星大学に21年、いわき明星大学に10年と多年にわたって勤務されましたが、単にその年数の長さにとどまらず、明星大学・いわき明星大学の両大学において創生期の困難な課題に取り組み、教育・研究・運営の基礎作りに尽力されたのであり、先生のご生涯は明星のために捧げられたといわせていただくことができましよう。

福永安祥先生のご研究は多岐にわたりますが、その中心は社会学・社会学研究方法論（特に社会調査方法論）、教育社会学、アジア社会研究の3領域にあると考えられます。

社会学の領域では、『社会学』『産業分析の基礎』『現代社会学』などの著書を公刊されていますが、現代社会の特質をとらえようとする研究、特に学部時代に経済学を専攻されて以来の研究成果を取り入れた「産業社会としての現代社会の特質の解明」に特色を持つ研究を進められました。1969（昭和44）年に刊行された牧野

巽・大浦猛・菊池幸子・藤原良毅編『学校社会学』においても「IV 学校と現代社会」の中で「現代社会の特質」「産業化と学校」の章を分担執筆されていますが、現代社会の特質として核家族化、機能集団の優位、広域社会の展開、社会体制—高度の産業化・情報化社会を上げるとともに、産業化の進展に関連して①学校の産業化への寄与、②産業界の学校への要請、③両者をめぐる社会問題に問題点を集約することができると指摘しており、ここに福永安祥先生の現代社会に対する認識とその学校教育との関係についてのお考えが示されていると理解できます。また、大学院在学中に川又昇先生のご指導を受けたこととも関連して、社会学研究方法論（特に社会調査方法論）の領域でも研究を進められ、川又昇先生との共著『社会調査』、単著としての『社会調査』、さらに次に取り上げる教育社会学研究と関連して『教育調査』を公刊されています。特に『教育調査』は教育を対象を特定した調査方法論の著書としては、今日においてもわが国において数少ない著書の一つです。この著書は明星大学において通学課程とともに通信教育課程でもテキストとして用いられることから、独学を助けるきわめて平易な、わかりやすいテキストとなっていると高く評価されています。

教育社会学の領域においては、1947（昭和22）年に「社会調査、特に中学校生徒生活実態調査」をテーマに文部省人文科学研究奨励交付金を、1949（昭和24）年に「東京都における一大学隣接地区の社会調査」をテーマに文部省科学研究費を受けて実証的な調査研究を実施されました。1951（昭和26）年には『教育社会学』を公刊されましたが、わが国においてようやく教育・研究が本格化し始めた創生期の教育社会学界において刊行された先駆的な概説書の一つと位置づけられます。また、日本教育社会学会

の機関誌『教育社会学研究』第10号（1956（昭和31）年刊）には「大学入試問題の考察—社会科入試問題を中心として—」を掲載されましたが、これは高等学校教諭の経歴を持つ福永安祥先生ならではのご研究であったと考えられます。1959（昭和34）年にはイギリスの教育社会学者A. K. C. Ottaway “*Education and Society - An Introduction to the Sociology of Education*” 1953を訳書『教育と社会』として公刊されましたが、オットウエイの考えは福永安祥先生の教育社会学の基礎となったものと考えられます。教育社会学の領域においても多くの著書・論文を發表されていますが、上記の「東京都における一大学隣接地区の社会調査」をはじめ、「大都市商工業地区における青少年の生活形態とその指導方策」（1953（昭和28）年）、「東京都下町地区の社会調査」（1954（昭和29）年）など都市地域社会における実証的研究を進められ、1977（昭和52）年には『現代都市の教育』を公刊されました。教育社会学における地域社会と教育に関する研究が農山漁村地域社会をフィールドとすることが多かったのに対して、都市化の進展する社会状況をふまえた新しい研究の地平を開く研究であると位置づけることができます。

福永安祥先生のアジア社会に対する研究関心は、古く第二次世界大戦以前に遡る早稲田大学在学中に「南方特別留学生」と同級になり、彼らとの交流の中から芽生えたものであるとお聞きした記憶があります。早くも1943（昭和18）年にはストユテルハイム「インドネシアの原始文化」を訳出して『新亜細亜』（満鉄刊）に發表されています。戦後も研究を続けられ、いくつかの論文を發表されてきましたが、1970（昭和45）年2月から2月間三島海雲記念財団から研究奨励金を受けて東南アジア諸国（南ベトナム、タイ、ラオス、マレーシア、インドネシア、

シンガポール等)の現地調査や現地での研究機関の訪問・文献資料蒐集を行ったことが、より本格的に研究を進める契機となりました。ご研究の成果は『東南アジアの展望』(共編著)、『現代アジア社会の研究』(編著)、『中国と東南アジアの社会学』などとして公刊されますが、特筆すべきは『創造文化的基本条件：中華民国社会的徹底研究』が趙倩の訳により台湾において中華民国国際関係研究所から公刊されていることであり、福永安祥先生の研究が国際的にも評価されていたことがわかります。また、研究活動にとどまらず、1973(昭和48)年にはアジア孤児福祉教育財団(松田竹千代理事長)の委託を受けてベトナム共和国サイゴン市近郊に建設する孤児職業センターのカリキュラムを現地調査(1973(昭和48)年3月から)に基いて作成されるとともに、センター開設業務(1973(昭和48)年7月から)に従事されるなど、実践的な活動を通してのアジア社会への貢献にも努められました。

このように活発な研究活動を展開された福永安祥先生ですが、明星大学人文学部社会学科2年生として「社会調査法」の講義を受講してから「社会調査実習」さらに「卒業研究」のご指導を受け、大学院における修士論文作成のご指導、さらに大学勤務後にご指導を受けた筆者の印象に残るお姿は、何よりも熱のこもる講義を展開されるお姿であり、卒業研究のご指導にあたっては学生一人ひとりをご自分の研究室に招

いての個人指導を続けられたお姿です。明星大学人文学部社会学科開設当初は比較的高齢の教授が多く、その中で就任時44歳であった福永安祥先生は多くの学生から慕われ、講義以外の場面においてもその労を厭うことなく学生に接してくださいましたが、その一つとして大学祭に社会調査実習の成果をもって日野市についての発表をする私たち学生の準備作業に夏休み中にもかかわらずご参加いただいたことを思い出します。まさに福永安祥先生は教育・学生指導に、研究に、大学運営にと、全てにわたって常に全力をもって取り組まれてこられたのだと、ご逝去された今になって改めて思い出されます。

明星大学・いわき明星大学に30余年勤務され、明星とともに歩まれた福永安祥先生の下へご逝去の前に明星大学創立50周年記念式典・祝賀会のご案内が届き、それをご覧いただいて大変お喜びであったとご子息からお聞きしました。福永安祥先生の明星に対する思いを改めて想起し、心から感謝の念を奉じて、先生を追悼する言葉とさせていただきます。

幽明境を異にし、今は白玉楼中の人となられた先生のご冥福をお祈りするとともに、今後も私たち後輩をお見守りいただき、お導きいただくことを願わずにはられません。

合掌

(2015年1月・記)

(たかしま ひでき、本学科教授)

福永安祥先生 略年譜

- 1922 (大正11) 年2月2日 岡山県倉敷市曾原、一等寺において次男として誕生
- 1940 (昭和15) 年3月 芝中学校 (旧制) 卒業
- 1942 (昭和17) 年3月 第一早稲田高等学院 (旧制) 卒業
- 1944 (昭和19) 年9月 早稲田大学政治経済学部経済学科 (旧制) 卒業
- 1944 (昭和19) 年12月 軍令部大本営海軍通信所 (海軍少尉)
- 1945 (昭和20) 年6月 支那方面艦隊司令部 (海軍中尉)
- 1946 (昭和21) 年1月 復員
- 1946 (昭和21) 年4月 関東総合高等学校 教諭
- 1951 (昭和26) 年3月 早稲田大学文学部大学院 (旧制) 修了
- 1952 (昭和27) 年4月 東京写真短期大学 講師
- 1957 (昭和32) 年4月 東京電機大学 専任講師
- 1966 (昭和41) 年4月 明星大学人文学部社会学科 助教授
- 1969 (昭和44) 年4月 同 教授
- 1981 (昭和56) 年10月 同 学科主任
- 1987 (昭和62) 年4月 いわき明星大学人文学部社会学科教授
同 学科主任、同 人文学部長
- 1997 (平成9) 年3月 同 退職
- 1997 (平成9) 年11月 明星大学名誉教授
- 2014 (平成26) 年9月28日 逝去 (享年 92歳)

この間、早稲田大学、創価大学、東海大学、共立女子大学の講師を務める。

- 学会所属 日本社会学会
日本教育社会学会 (幹事、理事、評議員等を歴任)
日中社会学会 (理事)
経済社会学会
関東社会学会

福永安祥先生 主要著作目録

- | 著書・論文名 | 発表年 | 発表誌名・発行所等 |
|---------------------------|---------------|--------------|
| ストユテルハイム「インドネシアの原始文化」(翻訳) | 1943 (昭和18) 年 | 『新亜細亞』第5巻第9号 |
| 『教育社会学』 | 1951 (昭和26) 年 | 前野書店 |

- 「学校の対社会関係」 1953（昭和28）年
『講座教育社会学』第5巻「学校の社会学」東洋館出版社
- 「大学入試問題の考察—社会科入試問題を中心として—」
1956（昭和31）年 『教育社会学研究』第10号
- A. K. C. オッタウェイ 『教育と社会』（翻訳）
1959（昭和34）年 関書院
- 『社会調査』（共著） 1962（昭和37）年 前野書店
- 『社会学』（共著） 1964（昭和39）年 前野書店
- 『産業分析の基礎』 1965（昭和40）年 東京電機大学出版部
- A. K. C. オッタウェイ 『概説教育社会学』（新訳）
1966（昭和41）年 関書院新社
- 「社会事実の数量化アプローチについて」
1967（昭和42）年 『明星大学研究紀要—人文学部—』第3号
- 「教育とマスコミュニケーション」 1968（昭和43）年 永杉喜輔編『教育社会学』協同出版
- 「都市研究の展望と基本的変数について」
1969（昭和44）年 『明星大学社会学科研究報告』第一集
- 『現代社会学』 1969（昭和44）年 前野書店
- 「現代社会の特質」「産業化と学校」 1969（昭和44）年 牧野巽他編『学校社会学』協同出版
- 「インドネシアの社会と文化」 1970（昭和45）年 『明星時報』1月号
- 「東南アジアのナショナリズム」 1971（昭和46）年 『明星時報』3月号
- 「東南アジア社会の基礎構造についての一考察」
1971（昭和46）年 『明星大学社会学科研究報告』第三集
- 「東南アジア諸国の高等教育」 1971（昭和46）年 『教育社会学研究』第23集
- 「宗教混在地域における社会的緊張の生成と展開（1）」
1972（昭和47）年 『明星大学研究紀要—人文学部—』第8号
- 『創造文化的基本条件：中華民国社会的徹底研究』（趙倩訳）
1974（昭和49）年 中華民国国際関係研究所
- 「東京周辺都市の教育構造と教育意識」
1975（昭和50）年 『明星大学研究紀要—人文学部—』第11号
- 『東南アジアの展望』（共編著） 1975（昭和50）年 カルチャー出版社
- 「教員集団の構造的特質」 1976（昭和51）年 『社会学年誌』第17号
- 「東京周辺都市の教育構造と教育意識（その3）」
1977（昭和52）年 『明星大学研究紀要人文学部—』第13号
- 『教育調査』 1977（昭和52）年 めいせい出版

- 『現代都市の教育』 1977（昭和52）年 早稲田大学出版部
- 「社会学における東南アジア研究」 1979（昭和54）年 『社会学年誌』第20号
- 「東南アジアと日本」 1980（昭和55）年
明星大学通信教育部報『めいせい』2月号
- 「海島性社会における家族意識」 1980（昭和55）年 『明星大学社会学科研究報告』第12号
- 『東南アジアの展望』（新版・共編著） 1980（昭和55）年 勁草書房
- 『現代アジア社会の研究』（編著） 1981（昭和56）年 明星大学出版部
- 「日本教育の社会学的考察」 1981（昭和56）年
明星大学通信教育部報『めいせい』5月号
- 「社会学における多元主義」 1982（昭和57）年 『明星大学社会学研究紀要』第2号
- 「世紀央後の社会学について —クリフォード・ギアツの事例—」 1983（昭和58）年 『明星大学社会学研究紀要』第3号
- 「浮田和民」 1983（昭和58）年
早稲田大学文学部社会学研究室『早稲田百年と社会学』
- 「イギリス教育社会学の新展開」 1984（昭和59）年
『明星大学研究紀要—人文学部—』第20号
- 「カリキュラム研究への社会学的接近」 1985（昭和60）年
『明星大学研究紀要—人文学部—』第21号
- 『社会学（改訂）』（共著） 1985（昭和60）年 私立大学通信教育協会
- 「中国社会学の軌跡 —受容と廃学、そして恢復—」 1986（昭和61）年 『明星大学社会学研究紀要』第6号
- 『東南アジアの展望（新版）』（共編著） 1986（昭和61）年 勁草書房
- 「インドネシアの華僑」 1986（昭和61）年 『問題と研究』10月号
- 『社会学と教育』 1986（昭和61）年 早稲田大学出版部
- 『千葉市の中学校教育 —学校要覧の統計的分析』（共著） 1987（昭和62）年 明星大学教育社会学研究室
- 「中国の社会問題と社会学」 1989（平成1）年
明星大学通信教育部報『めいせい』7・8月号
- 「現段階における中国社会学」 1990（平成2）年
『いわき明星大学人文学部研究紀要』第3号
- 『現代社会教育論』（共編著） 1990（平成2）年 明星大学出版部
- 「近代化と植民地」 1992（平成4）年
『いわき明星大学人文学部研究紀要』第5号
- 『中国と東南アジアの社会学』 1993（平成5）年 勁草書房

『「川前」—いわき市の旧行政地域の総合研究』（共著）

1994（平成6）年

いわき明星大学社会学研究室

「現代社会学の一傾向 —中国大陆の社会学と社会問題」

1996（平成8）年

『明星大学社会学研究紀要』第16号

「台湾の魯凱族—屏東県霧台郷の少数民族群」

1997（平成9）年

『日中社会学研究』第5号

注：著書・論文名中『』を付したものは著書を、「」を付したものは論文を表す。